

国際学会“The 25th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals”への 参加および発表に関する成果報告書

北海道大学大学院水産科学院 海洋生物資源科学専攻 修士課程 2 年
名倉 のどか

学会概要

学会日程 : 2024 年 11 月 11 日～11 月 15 日

主催 : The Society of Marine Mammals

学会名称 : The 25th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals
(SMM2024)

開催場所 : オーストラリア連邦西オーストラリア州パース
Perth Convention and Exhibition Centre

学会ホームページ: <https://www.smmconference.org/>

参加者数 : 約 1400 人

2024 年 11 月 11 日～15 日にオーストラリアの Perth Convention and Exhibition Centre にて The Society of Marine Mammals が開催する国際学会“The 25th Biennial Conference on the Biology of Marine Mammals (SMM2024)”に参加し、“Population Structure of the Harbour Porpoise *Phocoena phocoena* on the Coast of Hokkaido, Japan”という内容でポスター発表を行った。北海道の沿岸域を中心に生息するネズミイルカ *Phocoena phocoena* は従来単系統と考えられていた。しかしサンプル収集地域とミトコンドリア DNA コントロール領域の解析範囲を広げることにより、地域性の強い集団が優占する一方で、複数系統由来の個体が一定数来遊することで北海道沿岸域における遺伝的多様性が保たれている実像が明らかとなった。さらに地域性の強い集団は日本海側からオホーツク海にかけて生息している傾向にあり、北海道沿岸域で未だ明らかとなっていないネズミイルカの回遊経路についての示唆が得られた。発表のコアタイム中には、他海域からの移入の有無やその経路、生息域における漁業との関わりについてなど多くの質問や、それを通じたディスカッションを行うことができた(図1)。さらに他の研究者から南北海道地域における他鯨種に関する研究について声をかけていただくなど、自身の研究成果発信・意見交換にとどまらない成果を得ることができた。さらに、事業実施を通して南北海道にも生息する鯨類や生態系の保全、水産業との共存といった最新の知見を含んだ発表を聞くことにより、理解を深めることができた。今後は、事業実施に得られた成果や知見を南北海道における鯨類保全や漁業との共存を目指し、広く還元していきたい。

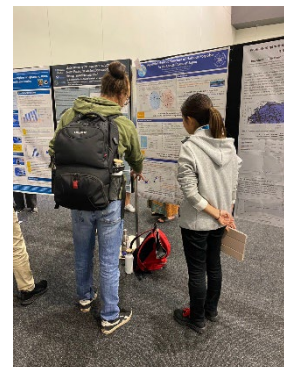


図1. 発表の様子